



山ノ上村住人 俗名 山上甚右衛門は、蓮如上人(1415～1499年 本願寺第八宗主) 帰依、法名を祐玄と号し、明応9年(1500年) 創立。正徳15年(1725年) 第七世玄哲は檀徒と協力し再建。本堂は昭和53年4月に建立されたものです。



真輪2丁目には、屋根瓦に旧麻田藩陣屋を使った家がありました。麻田藩は、所領最盛期は、11郡37ヶ村、領域は、今の豊中市在住の約6万人、約100の町村を合わせた外様大名で、初代菅重一より、14代木義泰まで、麻田(原田)姓(父分磨河村)に陣屋を構え、明治の廃藩置縣で麻田氏知事となり、子爵に叙せられました。屋根瓦は、麻田藩御殿を解体する時に譲り受けられ、鬼瓦をははした棟瓦や軒瓦等は、瓦にはそれぞれ麻田家の家紋の三洲波紋が記されている。大層格好い瓦は、ひとかたもあきませんが、運搬の際に、荷重に壊れと割れるおそれがあるので、当時は大変だったそうです。現在豊中市で保存されています。



浄行寺の境内に16mを越す松の太木
 がありました。昭和9年の空襲で倒れ
 大きな被害を受け、安全のため切り倒
 されましたが、その幹の
 部分を輪切りにして約30個の火鉢をつくり、檀家さんらに配ら
 れていました。その大きさは直径約63cm、高さ約31cm、まわり
 約190cmにもなる大きなものです。浄行寺で生まれ育った歌
 舞伎や浄瑠璃で有名な「お染久松」の久松も幼かった頃、境内
 にあつたその松の木の下で遊んだことがあった。そういって
 意味でお染・久松ゆかりの火鉢とも言われているんだ。現在は
 豊中が保管しています。



この地域の氏神様は岡町にある
原田神社で、毎年10月2日～8日
の間、真輪、走井、山ノ上地域に
原田神社から獅子舞を舞って、門
簾、舞盤、立舞等を送って、妖邪退
除（をろをくす邪気をくはる）を、
五穀豊穡（穀物がよく実る）を祈願
したります。

獅子神様は豊中市の無形文化財に指定され太平洋戦争後、
村々にへん巡れは中止されておりましたが昭和57年から
再開され近頃12ヶ村（真輪、走井、山ノ上、勝部、原田、今在家、小曾、
岡山、井坂、桜家、岡町、上津屋）を巡っておりま。昔は獅子神事
の日は親戚は寄り集って赤飯や乾走をつつて祝いあてたそ
うです。

また原田神社の獅子（メス）と八坂神社の獅子（オス）は夫婦で、
現在の豊中第三中学校の前でお見合いをして結婚する。その道
を現いながらとまわります。（玉井町・立花町には稲荷神社）



古来、竹で編んだ箕(み)という農具のへりの曲がった部分を「箕輪(みのわ)または箕曲(みのまが)と言いい、千里川は北から西南へ流れ、箕曲の地域で土手と共に貫西へ、そしてすぐ西南、さらに東南から南西へと小刻みに急転しており、加えて水面に於けるその流れのカーブの部分を元来「水の輪」と言っていたものと相まって「箕輪」と名付けられたと言われています。

現在の走井お地藏さん付近に昔かまど神社があり、その境内の井戸から清水が溢れて南側の浄光寺のまわりを西から南へ、南からさらに東へ流れ、道路に出て石橋を潜り、各家の庭を通り村の洗濯場となり、水草に花を咲かせて田畑に注いでいた。その様は正に水が走るようであったことにより、「走井」と呼ばれるようになった。

今は昔をしのぶ事は出来ないが、走井の古い家には、もう使われていないが多くの井戸が存在している。そして時代は下りかまど神社は、明治42年(1909年)神社法施行の際、原田神社へ末社として移された。

当地住民の山上葛右門という人は、蓮如上人（1415～1499年 本願寺第八代宗家）に帰依し、法名を祐玄と号し明応9年（1500年）に専教寺を創立した。当寺は現在の役所・学園所・集会所も兼ねており、人々は祐玄への深い尊敬と信仰の証として、山上に被せるとこの土地を山之上と呼ぶようになった。

元名の橘は、食用柑橘類の古称である離弁花植物ミカン科の枸橘（からたち）か、ヤブコウジ科の唐橘（からたちばな）かを古来から多く栽培しており、何れも薬用にもなる貴重なものでも、この地域を橘と呼ぶようになった。

また、和銅元年（708年）に泉大寺（あがたのいぬい）美千代（奈良時代の女官）へ景雲菴宿禰の姓が与えられ、以後の「橘」の字孫に由来し名付けられたとも言われている。

国内各地にある「玉井」、「玉ノ井」という地名は、ほとんどが美しい泉や井戸を象徴(美称)として名付けられており、当地も古代から中世にかけて各所に信仰にも似通った湧き水が大量に出ていたもので、その一帯を玉井と呼ぶようになったと思われる。

しかし近世期頃に当地周辺で発生した地殻変動等により、源泉からの流出ルートが現在の立花町(2ヵ所湧き水があり)へと変わり、当地における湧き水は枯れ果ててしまった。

当地は新免村と轟木村に属していたが、以後南新免となり昭和39年の町名整理の際、玉井涌の川上玉井町に変更された。



1 立花の湧き水

立花町3丁目の駐車場の脇の2カ所から地下水が湧き出ていました。この湧き水は周りの田畑の農業用水として利用されていたようで、夏場の渇水期にも湧き出し田畑を潤していたようです。この付近は、千里山丘陵の西の端に位置し、太古は大阪湾の入り江になっており、波打ち際にあたっていました。



当時の様子

2 土砂の坊大人

明治初期、人家もまばらなこの辺りで、30軒ほどの農家が一面に続く田んぼを耕していました。田植えの水が少なく大変難渋したようです。ある年、日照りが続いた村人が六甲山の山中にある「石ノ宝殿」に参拝し、お札を授かったところ恵みの雨が降ったという言い伝えがあり、それ以来神事を行うようになったそうです。今も毎年9月9日の午後7時から神事が行われています。



3 箕輪2丁目水路

今はコンクリートで固められていますが、箕輪2丁目にあるこの水路は55年位前は小さな小川だったそうです。そしてここでシジミが採れたそうです。その頃は、この辺には蛸がたぐさくいて、家の中まで入ってくるほどだったといひます。



4 豊中球場跡

1915年(大正4年)この地で第1回全国高校野球選手権大会が開かれました。参加代表チームは10校でした。当時、赤レンガに囲まれた球場入り口から豊中駅までは、すばらしい桜並木が続いていたそうです。「とよなか百景」にランクされているんだよ。



マップのこの部分が豊中球場があった場所だよ!

5 力石

走井の橋本さんのお宅に「力石」が2個あります。大きい方が6斗石(約90kg)、小さい方が4斗石(約60kg)あり御影石でできています。昔は16〜18才で4斗石を持ち上げると一人前の男と認められ、それなりの処遇が受けられました。1尺ほど(約30cm)の円に入り、日本手ぬぐいを石に引っ掛けて持ち上げるというやり方で、毎年、稲刈りが終わった後に行われました。その年の優勝者が石を持ち帰り、次の年まで自宅に置きました。明治の頃から戦前まで続いたそうです。



重そう〜

6 走井地蔵

箕輪小の南側、走井交差点を西へ行くと千里川に架かる宮川原橋のたもと一段低いところに走井地蔵が祭られています。このお地蔵さんは等身大の腰から上しかなく、腰から上の病(眼病、歯痛、腰痛等)にご利益があるといわれています。毎年8月23日、24日の両日走井地蔵講の方々が地蔵祭りをし、お守りされています。



7 箕輪小橋

昭和42年7月、6時間にわたって降り続けた豪雨により千里川が決壊。木橋の箕輪小橋は、蛸池南町側が堤防とともに流されてしまい、橋の横にあった墓地の墓石が泥の中に折り重なって倒れ、元の形が思い出せないほどだったそうです。その後、大規模な改修工事が行われ、治水対策が強化され、今に至っているんだよ。



8 箕輪地蔵

全国に800余社を誇る愛宕神社の総本山である京都の愛宕神社は、和気清麻呂が愛宕山頂上に築いたのが起りといわれ、水の神・土の神・稲司の神・五穀の神・火の神が祀られています。現在当地蔵さんは池田五月山の愛宕神社とご縁もあり、地蔵の子供たちを見守っており、毎年8月24日にお祭りをしています。昔は肝試しなどをしてたんだよ。



9 新免遺跡

新免遺跡は通称豊中台地の西端に位置し、阪急豊中駅の西側一帯に広がる集落遺跡です。猪名川周辺の低湿地に暮らす弥生人たちが、人口の増加などの原因で弥生中期(約2000年前頃)に新たな生活の場を少し高台になったこの新免遺跡に求めました。全国的に珍しい小さな戸を多く備えた特殊な建物も見られたんだよ。



10 超光寺

超光寺(浄土真宗本願寺派、山号は影須山)は、源平合戦にて源義経に従軍した那須与一宗高ゆかりの寺院です。元暦2年(1185年)、屋島の戦いにて平家軍が掲げた鷹の旗を一矢で射落とした那須与一は、当寺にて出家し、仏門に入ったと伝えられています。お堂の扉に角の紋が彫刻されているのは、文治5年(1189年)に那須与一が後鳥羽上皇より紫の紋の使用許可を得ることによるものです。創建は古く真言密教を宗として弘仁年中(810〜24年)に遡り、その後那須与一の子孫那須太郎(佐賀藩)が本願寺覺如に帰依して浄土真宗に改宗されている。また、江戸時代末には四天王寺秋野坊より(秋野坊とは聖徳太子から同寺の管理役に任ぜられた小野妹子の子孫が居住した塔頭で、四天王寺は明治以前千有余年、秋野坊が管理して来たものです。)坊守を迎えるという由緒ある寺院でもあります。



11 如來寺

弘仁3年(812年)の平安時代に弘法大師による開基と伝えられています。天正5年(1577年)の織田信長が荒木村重の伊丹城攻めによる兵火で消失、慶長期に本堂が再建されました。また1249年に親鸞上人が巡教の際、当時の住職が法話の他力信仰に感動し弟子となり転宗した。以来、浄土真宗のお寺となったんだよ。



12 浄行寺

応永6年(1399年)楠木正秀(正成の第3子・正康の子)は、時勢を憂いて仏門に入り本願寺第七世存如上人に帰依し、当時の庵を正光山浄光寺と号し名を浄信と改めた。また、歌舞伎「久松」の生家としても有名。

